

パブリックコメント「七ヶ浜町長期総合計画後期基本計画及び七ヶ浜町総合戦略（案）」に係るご意見と回答について

■パブリックコメント概要

募集期間	平成27年9月7日（月）から平成27年10月2日（金）まで
提出期限	平成27年10月2日（金）
ご意見を提出できる方	・七ヶ浜町民 ・町内に事務所または事業所がある個人及び法人その他の団体 ・町内の事務所または事業所に勤務する方
計画案の閲覧場所	七ヶ浜町役場入口ロビー ※七ヶ浜町ウェブサイトにおいても掲載
ご意見提出方法	・町役場への直接提出 ・郵送 ・ファクシミリ ・電子メール

■ご意見と回答

No. 1	A（女性）
<p>七ヶ浜町は、宮城県内でも、他に類のない町だと思います。貞山堀があり、「橋」を渡り町に入る。この情緒感を活かしていただき「七ヶ浜町に付加価値」を付けれる町づくりに取り組んでいただき、「七ヶ浜に住みたい。」と思われるような町になればと思います。大変残念になのが、「貞山橋」～「中峯橋」間の貞山堀のほitoriです。多賀城側は、公園など整備されていますが、七ヶ浜のいわば、「玄関」である場所があまりにもひどく、（震災後の整備もされていなく）多賀城側と雲泥の差があることが七ヶ浜に住んでいて悲しくなります。所有所在の問題などいろいろなしがらみはあるかと思いますが、国・県を巻き込んだ取り組みで「玄関」を「七ヶ浜の顔」になれるような場所になってほしいと思います。近くに松島・塩釜があり観光地が近くにあるのでタイアップできるような「町」であってほしいと思います。</p> <p>（回答）</p> <p>後期基本計画の基本目標に「自然と調和したまちづくり」を掲げています。本町の自然生態系や美しい景観、歴史的景観や風土を保全し、将来にわたって快適に生活できる居住環境の持続により、自然と調和したまちづくりを推進することとしています。</p> <p>本町側の貞山堀（旧砂押川）につきましては、県事業になります。東日本大震災からの復旧として貞山橋から中峯橋にかけて、護岸工事が計画されています。</p> <p>ご意見のように貞山橋と貞山堀周辺は、「七ヶ浜の玄関」「七ヶ浜の顔」と言われます。本町も国や県など関係機関と連携し、景観の保全に努めます。</p>	

No. 2	B（女性）
<p>1. 町民に意識をもたせる</p> <p>長期総合計画は「町民による町民のためのまちづくり」で、町民が主役です。これを理解し、意識を持たせることが一番大事だと思います。理解と意識度を高めた目に文章をわかりやすく表示する等…です。</p> <p>2. 計画の策定にあたって</p> <p>アンケート、町民こん談会、町民よりよせられた意見や提案を基に、計画の素案づくりをすすめていくようですが、それに加えて、計画審議会（公募、又は各市民団体の長・行政）を開くことを予定しているかどうかで、もし予定に入っていれば、今後十年先を見据えた斬新なアイデア・知恵を活かすため、高</p>	

校生の参入を希望します。

3. 計画の推進体制にあたって

計画の中に町民に役割、行政の役割を明確にして一体となって推進することが大事です。行政力・町民力をどの場でどのように推進していくのか町民に明示する必要があると思います。

4. 計画・重点戦略としての、定住人口の確保・交流の強化・町民の連携の強化について

この三点を重要課題として位置づけ、これらに行政でできること、又、町民・事業者など地域の多様な担い手が、日常生活の中で、それぞれの力を発揮して、協働して取り組むことによって、課題の解決を図っていくことが重要と考えます。

5. 反省について

実践後の反省について、町民不在の反省になることが多々ありますが、反省の会には必ず住民の声が入るように配慮してほしい。反省資料は次年度につなげるために絶対必要な資料となります。

(回答)

「1. 町民に意識をもたせる」につきましては、後期基本計画・総合戦略は平成28年2月に印刷製本し、全戸に配布する予定です。多くの町民により見やすく分かりやすい計画書になるよう進めています。

「2. 計画の策定にあたって」につきましては、住民満足度調査の結果、地区懇談会で出された意見等を参考にしながらまとめます。七ヶ浜町総合開発審議会条例の規定に基づき、19名の方に委員を委嘱し、計画策定の審議をいただきました。幅広い分野から委員を委嘱しましたので、公募による委員委嘱はありませんでした。「高校生からのアイディア」との意見ですが、今回、町内中学生(35名参加)を対象に「地域の資源と将来のまち」をテーマにワークショップを開催しました。

「3. 計画の推進体制」につきましては、基本目標の中に「住民と行政との信頼関係が構築されたまちづくり」を掲げています。「行政力・町民力」につきましては、同じく基本目標の中に「ひととまちが協働し共に築くまちづくり」を掲げています。

住民と行政が役割を分担し、地域課題の解決に向けたまちづくりを推進します。

「4. 定住人口の確保」につきましては、町民が引き続き本町で快適に暮らすことのできる交通ネットワークの形成や、新しい人材を町外から呼び込むなどの、地域資源をいかしたまちづくりの推進により、定住化を促進します。「交流の強化」につきましては、観光や産業の推進、雇用機会の確保による交流人口の増加、「町民の連携の強化」につきましては、「3」の回答と同様に、ひととまちが協働し、共に築くまちづくりを推進します。

「5. 実践後の反省」につきましては、「3」、「4」の回答と合わせ、地区懇談会での意見等を踏まえながら住民と行政との信頼関係が構築されたまちづくりを推進します。

No.3

C (男性)

これからの七ヶ浜町は1次産業から脱皮しなければならない！1次産業にいちからスタートするには多大な資金が必要となり参入はむずかしいです。今までの町の方針は1次産業をどうにかしようと言う考えですが、これからは観光の方に方向転換した方が良いと思います。松島の風景の4つある風景の1つ表松島と言う宝を持っています。あと日本三大避暑地の海の高山と言う宝も持っています。今から5年もすれば吉田浜でも空き家が30件を越します。その空き家に若い人たちに住んで貰い観光に関する仕事をして貰える様に環境作りをしないとダメだと思ふ。

1. 観光に方針転換。お宝がいっぱいあります。
2. 若者達が七ヶ浜に定住出来る環境を作る。
3. 県道58号線を使う町一周のぐるりんこを走らせる。
例として代ヶ崎から菖蒲田には直通では行けない。
松ヶ浜から代ヶ崎までも同じ。
4. 東北・北海道で1番小さな町です。
それを逆手に取れば色々な事がやりやすいと思います。
5. それぞれの観光地や駐車場を作り町外の人達に安心して来て貰う。
6. 海の駅を作り、今の七の市を常設にすると良いです。
7. 町内の人達に、七ヶ浜はすごい観光地なんです。
と言う事を認識してもらうような政策をして下さい！

(回答)

「1、観光」につきましては、本町の立地条件をいかした観光を目指します。

「2、若者達の定住」につきましては、新しい人材を町外から呼び込むなどの地域資源（空家の活用を含む）をいかしたまちづくりの推進により、定住化を促進します。

「3、町民バスぐるりんこ」につきましては、利用目的によって公共交通の運行形態に対するニーズが異なるため、利便性を高めるための公共交通ネットワークの検討を進めます。

「4、東北・北海道で1番小さな町」につきましては、本町の特性をいかし、将来にわたって快適に生活できる、自然と調和したまちづくりを推進します。

「5、町外の人達に安心して来てもらう」につきましては、町内外の方が直接販売店や産業イベントに訪れ買い求めることのできる機会や場の設定を推進します。

「6、海の駅」につきましては、「5」の回答と合わせ誘致を進めます。

「7、町内の人達に、七ヶ浜はすごい観光地であることを認識してもらう」につきましては、本町のすばらしさを町内の人達にも知っていただくために、よりきめ細かな情報発信に努めます。

No.4	D (男性)
------	--------

まず、町民の意見を広く聴く懇談会を1ヶ月もかけて丁寧に開催していただいた事、そしてこのように町へ意見を言う窓口を開いていただいた事に、私は深い感謝と、今後の町への非常に強い期待を感じております。関係諸機関の方々は非常に気苦労があったことを推測します。本当に感謝をしてもしきれません。

だからこそ七ヶ浜町を愛する町民の一人として真剣に考え、未熟ながら私が考える未来に対する提言を言わせていただければと思っております。

まず前提として、昨年国の研究機関が発表した「2040年代の消滅可能性都市」に残念ながら七ヶ浜町は選ばれています。皆様ご存知でありますように、財政破綻をすると北海道の夕張市やアメリカのデトロイトのように公共サービスの機能や質は著しく低下します。

夕張市では焼却施設が稼働できず可燃ごみを貯めていたり、デトロイトでは学校の廃校や警察機能の低下による犯罪率の向上が報告されています。そうするとますます町の魅力はなくなり、そのことでまた人口が流失し、負のスパイラルになってしまいます。

「消滅可能性都市」とは、いわばこのままの経営を進めるとなるとあと約30年で倒産を格付けされた

会社のようなものであり、七ヶ浜町を心から愛している町民として非常に強い危機感を持っています。

財政を改善し維持をするためには【「歳出」を減らし】【「歳入」を増やす】必要がありますが、行政ではインフラ等の人口変動によらない固定歳出が多く、大幅に減らすことが難しい一方で、主な歳入は税収である為に納税をする労働人口が極端に減少していくことがより深刻な問題であると考えます。

歳入を増やす為には、まさに今回町より提示していただいた「後期基本計画の重点項目」であります「人口減少と地域経済縮小の克服」が大切であると私も強く賛同します。

「定住促進」をする為には「雇用創出」も大切ですが、七ヶ浜町特有の「東北・北海道合わせて面積が一番小さい」「丘陵地であるために平地が少ない」「交通インフラが近隣市町村に比べて不便である」「仙台から約20キロ」という地域特性上、企業誘致やそれに伴った大規模な雇用は難しく、限られた資源でより効果を出す為には「交流人口増加」がより重点を置くべきことではないかと考えます。

「交流人口増加」とは「観光戦略」であり、そこには「経営戦略的視点」が必要となります。まず「経営戦略」を考える上で大切なのはゴールとなる「未来のビジョン」です。

そしてそのビジョンを作る為にはまず自分たちの「強み」と「弱み」を分析し、「強み」をより強化していく必要があります。その「強み」を最大限強化した状態を「未来のビジョン」に据えることで戦略の方向性都、限られた資源の選択と集中が可能になります。

競争優位性がある「強み」を特化させ、七ヶ浜の資産価値を高めていくことで価値を感じた人々が消費（交流人口増加→定住促進）をしていくことになります。

七ヶ浜町の資産としては「サーフィンやトライアスロンなどのマリンスポーツ」「100年以上の歴史があるビーチ」「高山外国人避暑地という特異な歴史」「縄文からの大木囲貝塚」「献上しているノリ」「ボッケ・アワビ・ウニなどの新鮮な海鮮」「ヨットハーバー」「多聞山的美観などの自然景観」などがあげられます。ではその中で近隣市町村を比べても絶対的競争優位性がある資産はなんのでしょうか。

私は「日本三景の松島町」、「市場や塩竈神社を持っている塩釜」、「国府の歴史とインフラや水族館がある多賀城市」と近隣市町にはそれぞれ「景観」「食」「利便性」「歴史」の特性を持った町がある中で、唯一七ヶ浜町にある資産は「サーフィンやトライアスロンなどのマリンスポーツ」「100年以上の歴史があるビーチ」「高山外国人避暑地という特異な歴史」「ヨットハーバー」ではないかと考えます。

そしてこの資産を総称して言えることは「マリンリゾート（避暑地）」ではないのでしょうか。

そもそも七ヶ浜は1888年に外国人が移り住み外国人避暑地ができた年に、市制施行により七ヶ浜村が歴史上誕生する背景からも、避暑地と七ヶ浜町は切っても切り離せるものではありません。

またヨットハーバーや君ヶ岡公園があることから、七ヶ浜町は神奈川県葉山のような御用邸がある避暑地の質があることがうかがえます。

こうしたことから私は七ヶ浜町特有の資産と歴史を念頭に置き、【海の軽井沢】をいうビジョンで【「癒し」を中心としたマリンリゾート】として町のブランディングをしていくことを提案します。

ターゲットとなる顧客は「比較的所得層が高い20代から40代の女性」を提案します。それは交流人口を増やす上で鍵となるのは女性であり、かつ先の目的である「定住」を考える上でも、このターゲット層が家族とともに定住することで税収の向上を見込むことができます。

私はここであえて「サーフタウン」を目指すことには反対します。それは日本全国のスノーリゾートが経営危機になっている状況を見ればわかるように、今の若い世代の中で「横乗り文化」は衰退しています。サーフィンは比較的年齢が高くても続けている方が多いのでサーフィン人口の減少は顕在化していません

が、50年後の未来を考えたときに、サーフィンだけに特化することは危険だと思っています。

あくまでサーフィンも含めたマリッジが楽しめるリゾートである必要があります。

また「癒し」をテーマにしていることは七ヶ浜の歴史的特性もさることながら、今年の12月より50人以上の社員がいる会社は社員にメンタルヘルスチェックを受けさせることが義務化する背景からも、精神衛生の市場は今後拡大することが見込まれます。

では【「癒し」を中心としたマリッジリゾートとして町のブランディングをしていく】為にはどのようにしたらいいか。

まずは癒される空間は「非日常空間（景観）」「清潔感」「地域特有の質の高いサービス性」が必要になります。

・「非日常空間（景観）」→景観条例

初めに着手すべき土地は菖蒲田海岸から花淵浜までの県道沿いです。【「癒し」を中心としたマリッジリゾート】としてまずはこの地域を一定のテーマをもった景観にしていく必要があります。その為には景観条例を定め、景観を統一させることで七ヶ浜町の資産価値を高めることができるのではないかと考えています。

私は地元の若者や農家さん漁師さんと菖蒲田浜の元NTT基地局に東北の杉を使ったログハウスでカフェレストランを建設します。

これは杉の癒し効果も狙っていますが、外国人避暑地としての歴史的価値、そして景観としての価値も考えています。菖蒲田海岸の入り口だからこそログハウスである必要が絶対にあったと考えています。

・「清潔感」→海岸清掃の強化とゴミ処理の緩和、海岸管理団体の設立および委託。

とにかく海岸は七ヶ浜の資産である為に鳴り砂を目指すぐらい綺麗にしなければなりません。そして管理がなされていない為に繁忙期は無駄地帯となり、BBQをセットごと捨てていくなど本当にひどい状態となっています。

・「地域特有の質の高いサービス性」→20代から40代の女性向けに開発された美味しい特産品の開発やマリッジ客向けのシャワー施設や一人で海を見に来た方の休憩スペースなどのサービス提供。

具体的な施策はいくつもありますがここで全てを言うことは控えさせていただきます。それは今回の提言で私がお伝えしたいのは、全ての施策のゴールとなる「未来のビジョン」を早急に作る必要があります、その為には徹底的に経営戦略的視点で分析する必要があるということです。

そして私は七ヶ浜町特有の資産と歴史を念頭に置き、【海の軽井沢】というビジョンで「比較的所得層が高い20代から40代の女性」をターゲットとした【「癒し」を中心としたマリッジリゾート】として町のブランディングをしていくことを提案いたします。

可能でありましたら、今後もこのような意見を出させていただく機会をいただければ幸いです。また必要であればマーケティング分析等も行いますし、私はグロービス経営大学院に通っている関係上、経営コンサルタントをされている先生方に知り合いがあります。

必要であれば町のために動きますので、遠慮なく申しつけていただければ幸いです。

読んでいただき、本当にありがとうございました。

(回答)

ご意見を「定住促進」、「交流人口増加」、「景観」、「清潔感・海浜清掃の強化」、「地域特有の質の高いサービス性」、「未来ビジョン」の6点に整理させていただきました。

「定住促進」につきましては、本町に移り住みたいと考える世帯に対し、本町の魅力を伝える情報発信の推進により、定住化を推進します。ご意見のように若い世帯の定住化により本町の税収の向上も期待できます。

「交流人口増加」につきましては、本町の立地条件をいかした観光、地域のにぎわいの創出と合わせて交流人口の増加を目指します。

「景観」につきましては、基本目標に「自然と調和したまちづくり」を掲げています。本町の自然生体系や美しい景観、歴史的景観や風土を保全し、将来にわたって快適に生活できる居住環境の持続により、自然と調和したまちづくりを推進します。景観条例につきましては、検討課題といたします。

「清潔感・海岸清掃の強化」につきましては、本町はアドプト（里親）制度による多くのボランティアの協力のもとに海浜清掃活動を行ってきました。今後もボランティアの参画の可能性を探りながら自然環境の保護と環境美化を推進します。

「地域特有の質の高いサービス性」につきましては、基本目標に「地域資源をいかした活気あふれるまちづくり」を掲げています。本町の優れた地場産品を町内外の方が直接販売店や産業イベントに訪れ買い求めることのできる機会や場の設定を推進し、交流人口の増加や地域のにぎわいにもつながる取り組みを目指します。

「未来ビジョン」につきましては、基本目標に「長期的なビジョンに立ったまちづくり」を掲げています。未来に持続可能なまちづくりを実現するため、計画的なまちづくりを推進します。